

科目名称：	こども特演Ⅳ（大学：保育内容（人間関係）指導法Ⅰ）	
担当者名：	上野 幸子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
幼児は多様な人間関係を通じて自他理解、社会関係や社会性を発達させる。乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題について学び、乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解を深める。		
授業の達成目標・到達目標		
①乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題について知る。 ②乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解を深める。 ③教材研究を通して、あそびの重要性を学ぶとともに、保育者に必要な協同性、実践力を養う。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)	60		25	15	100
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 子育て支援講座として、保育園で保育士 陪席の形式で保護者にペアレントトレー	《経験年数1》 4年
	《内容2》 スクールソーシャルワーカーとして勤務	《経験年数2》 6年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
参考文献として『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊池篤子編（みらい）を使用する。 適宜映像資料を使用する。

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題の理解	乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題を理解し、他者に説明できる。	乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題を理解している。	乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題をなんとなく理解している。	乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題を理解していない。
乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについての理解	乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて深い理解がある。	乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解している。	乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについてなんとなく理解している。	乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解していない。
保育者に必要な協同性、実践力	教材研究を通して、あそびの重要性を学ぶとともに、保育者に必要な協同性、実践力がある。	教材研究を通して、あそびの重要性を学ぶとともに、保育者に必要な協同性、実践力がおおむねある。	教材研究をなんとかこなすことで、保育者に必要な協同性、実践力がおおむねある。	教材研究ができず、保育者に必要な協同性、実践力が伴っていない。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回	保育の基本(保育とは何か、環境を通して行う保育について事例をもとに考える)	事前に教科書を読み事例について考えをまとめておく。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第2回	領域としての「人間関係」(各領域との関係をグループワークで話し合い理解する)	事前に当該部分の教科書を読み各領域について確認する。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第3回	領域「人間関係」のねらい(仮想事例についてグループワークしねらいの内容を理解する)	事前に教科書、保育所保育指針でねらいを確認する。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第4回	領域「人間関係」の内容(事例についてのグループワーク実施)	事前に保育所保育指針を読み内容を確認する。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第5回	新生児の人への関心(赤ちゃんが持つ優れた能力を中心に新生児のコミュニケーションを理解する)	事前に教科書を読み赤ちゃんの持つ能力について理解する。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第6回	人との関わりの基盤(アタッチメントの形成と機能などについて理解する)	事前に教科書を読みアタッチメントについて理解しておく。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第7回	乳幼児の社会性の発達(乳児の具体的な行動から、認知や人との関わり、コミュニケーションの発達を理解する)	事前に配布資料を読み内容に取り組む。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第8回	乳幼児の社会性の発達(1歳から2歳の発達について理解する)	事前に配布資料を読み内容に取り組む。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第9回	乳幼児の社会性の発達(3歳から6歳の発達について理解する)	事前に配布資料を読み内容に取り組む。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第10回	遊びの中での関わりの育ち(遊びの発達と人との関わり、遊びの中で関わりを育てる事について学ぶ)	事前に配布資料を読み、自分の実習経験をもとに遊びについて考える。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第11回	事例をもとに遊びの機能、人との関わりについて考える(グループワーク)	事前に配布資料を読み事例について考えをまとめる。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第12回	事例をもとに遊びにおける関わりのいざこざについて保育士の支援を考える(グループワーク)	事前に配布資料を読み事例について考えをまとめる。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第13回	子どもの自己主張を支える	事前に配布資料を読み自我の発達について理解し、事例課題について考えをまとめておく。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第14回	自立と依存(グループワーク)	事前に教科書と配布資料を参考に事例課題についての考えをまとめる。事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。	120分
第15回	まとめ	事後学習内容を振り返りフォーム課題を提出する。これまでの授業内容を整理し、復習しておく。	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、子ども同士が遊んでいる場面や子どもと養育者が遊んでいる様子などに関心をもち、気になる点があれば、書き留めておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
フォーム課題25%、授業参加率(受講態度を含む)15%

課題に対するフィードバック

毎授業後に提出したフォーム課題について、次回の授業冒頭で論点、質問等についてフィードバックする。
評価方法・基準 定期試験60%、フォーム課題25%、授業参加率(受講態度を含む)15%

教科書・参考書

教科書：実践保育内容シリーズ「人間関係」一藝社
参考書：「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)